

コロナ禍でも工夫と努力で…

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大のため、多くの行事が中止となりました。青少年赤十字の活動も縮小され活動の継続が心配されました。しかし、各校では毎年取り組んでいる行事を工夫して行ったり、今年だからこそできる行事に取り組んだりと一生懸命活動しました。その様子をご紹介します。

道徳授業「ウイルスの次にやってくるもの」

6月29日(月)、船橋市立坪井中学校において、「差別・偏見を許さない心」というテーマで、道徳の授業が行われました。生徒たちはコロナ禍において人々がとった行動を思い起こし、不安(恐怖)が差別や偏見を生むことを学び、医療従事者など、差別や偏見を受けた人々の気持ちを考えて、自分たちに実践できることを発表しました。

【指導者から教材に対するコメント】
「差別はいけない」と頭ではわかっている、予測不可能な事態に置かれたとき、自分を守りたい一心で恐怖に駆られ差別が起こってしまう。そんな人間の弱さが描かれるとともに、「人は団結すれば、ウイルスより強く、賢い」というメッセージが響く動画に、大人である私自身も考えさせられました。生徒たちは、絵本のような温かみのある絵を通して「ウイルスの次にやってくる、ウイルスよりも恐ろしいもの」の正体をしっかりと理解していたと思います。内容が捉えやすく短くまとまっているので、生徒が考える時間もしっかりと確保でき、道徳の教材としてもぴったりでした。

校内登録式

7月15日(水)、千葉県立蘇我中学校において、青少年赤十字登録式が開催されました。同校は昭和30年から青少年赤十字を採用し、今年で65年目になります。例年であれば、体育館で登録式を行っていましたが、新型コロナウイルス感染症対策として“3密”を避けるため、今年度は放送室からの中継により行われました。主に新1年生に向けて代表生徒から「青少年赤十字の活動」について説明がありました。式の最後に、生徒たちは心の中で青少年赤十字のちかいを唱和し、今年度の活動に向けて意識を高めました。

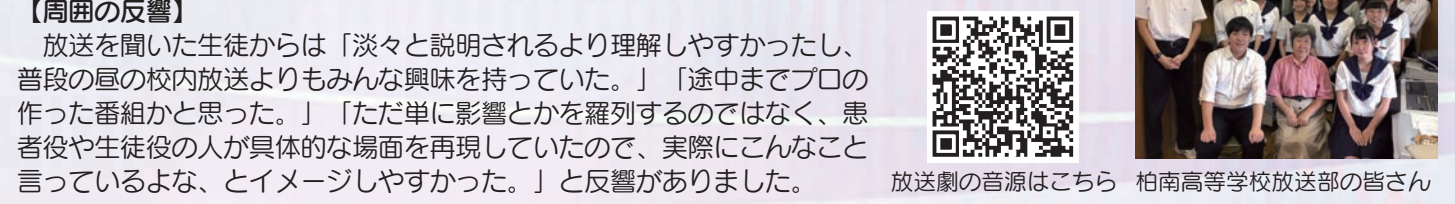


放送室から全校生徒へ向けて話をする代表生徒
授業の様子
JRC教材の視聴
各教室で中継された映像を視聴しました。
説明をする代表生徒

放送劇「新型コロナウイルス感染症の怖さ」

千葉県立柏南高等学校において、同校放送部による新型コロナウイルスの本当の怖さを伝える放送劇が行なわれました。休校が明け久しぶりの登校となりましたが、学校生活にいろいろな制限がありました。昼食も食べながら話をする事ができないので、昼休みの放送ではみんなの共通の話題、世の中の関心事となっている新型コロナウイルス感染症についての特集をすることにしました。教材の言葉のリアルさを出すために、「放送劇」にすることにしました。また、解決策を伝えるには、高校生目線で具体的にわかりやすくしようと、私たちの身近なことも台詞の中に組み込んでみました。顧問の先生のご指導を受けながら、出演、編集、当日のアナウンスは私たち放送部員みんなで行いました。この作品を聞いてくれた仲間達が、世の中のために行動してくれることを願っています。

【周囲の反響】
放送を聞いた生徒からは「淡々と説明されるより理解しやすかったし、普段の昼の校内放送よりもみんな興味を持っていた。」「途中までプロの作った番組かと思った。」「ただ単に影響とかを羅列するのではなく、患者役や生徒役の人が具体的な場面を再現していたので、実際にこんなこと言っているよな、とイメージしやすかった。」「と反響がありました。」

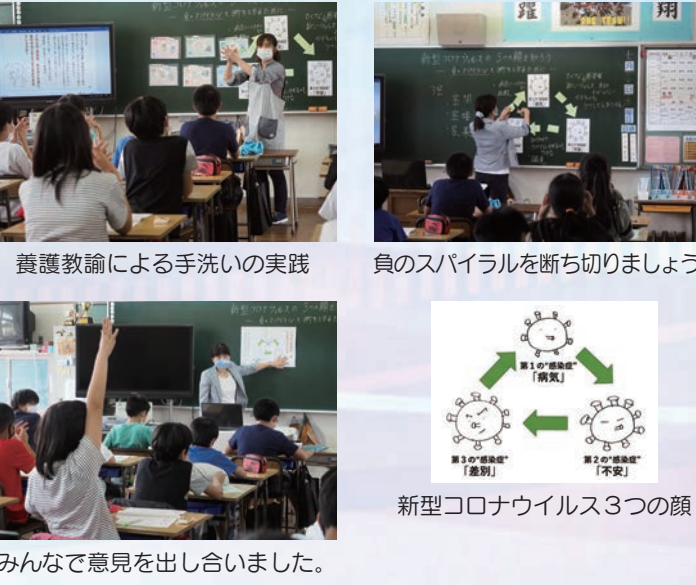


放送劇の音源はこちら 柏南高等学校放送部の皆さん

特別活動事業「新型コロナウイルス 3つの顔」

保健授業で「新型コロナウイルスの3つの顔」(青少年赤十字教材)が活用されました。

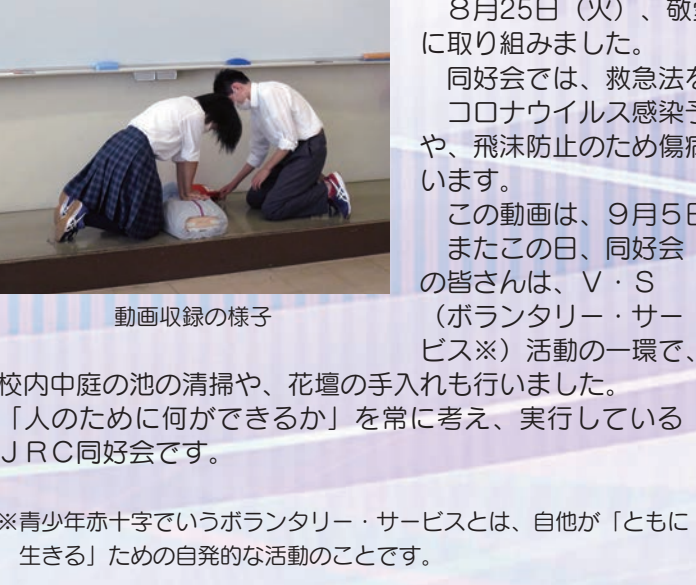
7月30日(木)、銚子市立明神小学校において、特活(保健指導)の授業が行われました。この授業は新型コロナウイルス感染症について理解を深めるために行われたもので、子どもたちは「ワクチンができていないから不安が生まれる。」「友達に病気をうつしてしまわないか不安になる。」など新型コロナウイルスの3つの顔(病気・不安・差別)について、具体的な事例を出し合い、自分たちが実践できることを考えました。授業では養護教諭から、子どもたちに正しい手洗いを実践して見せる場面もありました。「ウイルスから自分の身を守ること」や「不安」が「差別を生むこと」を再確認できたようです。



養護教諭による手洗いの実践
負のスパイラルを断ち切りましょう!
新型コロナウイルス3つの顔
みんなで意見を出し合いました。

救急法普及のための手作り動画!!

8月25日(火)、敬愛学園高等学校JRC同好会の皆さんが救急法普及のための動画作成に取り組みしました。同好会では、救急法を動画で紹介するため、夏休み期間を利用して動画収録を行いました。コロナウイルス感染予防の観点から、人工呼吸を行わずに、胸骨圧迫のみで対応することや、飛沫防止のため傷病者の口元にハンカチをかけるなどの対応を盛り込んだ内容となっています。この動画は、9月5日に開催された文化祭において公開されました。またこの日、同好会の皆さんは、V・S(ボランティア・サービス※)活動の一環で、校内中庭の池の清掃や、花壇の手入れも行いました。「人のために何が出来るか」を常に考え、実行しているJRC同好会です。



動画収録の様子
校内中庭の池の清掃や、花壇の手入れも行いました。
「人のために何が出来るか」を常に考え、実行しているJRC同好会です。
※青少年赤十字というボランティア・サービスとは、自他が「ともに生きる」ための自発的な活動のことです。

校内チャリティーバザー

7月31日(金)、銚子市立銚子高等学校JRC部の皆さんが校内でチャリティーバザーを実施しました。この企画は、例年6月に開催している同校文化祭において実施予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となってしまったため、学期末に校内限定で行われました。同部員たちは、自ら手作りしたアクセサリー(キーホルダー、ストラップ等)を販売し、得られた収益を募金に充てることとてす。

義援金「令和2年7月豪雨災害」

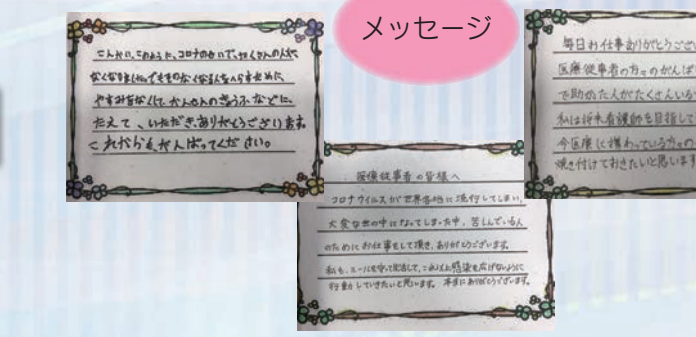
8月7日(金)、流山市立東部中学校の皆さんから「令和2年度7月豪雨災害義援金を贈呈いただきました。贈呈式当日は、学校代表として生徒会の皆さんにお越しいただきました。生徒会の皆さんは、「今まで、流山市等からの依頼で義援金募集を行ったことはあるが、今回は生徒会主催で活動しよう。」と思い、校内での義援金募集に積極的に取り組みました。義援金の募集は、毎朝、各クラスや委員会からの声掛けで、全員の気持ちが一つになるよう取り組んだようです。生徒会長の矢吹さんは、「困っている人のため、少しでもちからになれば。」とのことごとでした。



流山市立東部中学校生徒会の皆さん

医療従事者へ、感謝のお手紙

千葉県立蘇我中学校の有志(110名)の皆さんから医療従事者にあてたお手紙をいただきました。この取り組みは、同校のJRC委員会の呼びかけにより行われたもので、生徒たちはV・S(ボランティア・サービス※)活動として取り組みました。皆さんからの温かいお気持ちは、成田赤十字病院へ大切にお届けしました。



メッセージ

【お礼のメッセージがきた～!】
千葉県立蘇我中学校の有志の皆さんから、成田赤十字病院の医療従事者に励ましの手紙をいただきましたが、成田赤十字病院の職員からお礼のメッセージが届きました。千葉県立蘇我中学校の皆さん、ありがとうございました。



お手紙を読んでいる様子
お礼のメッセージ

福祉体験学習(点字体験)

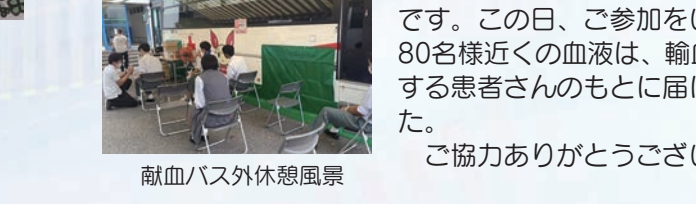
9月、鎌ヶ谷市立第四中学校において福祉体験学習が実施されました。福祉体験学習は、「車いす体験」「妊婦体験」「高齢者体験」「点字体験」「手話体験」など、充実した内容で行われ、それぞれの体験を通じて、どのような助け(支援)が必要なのかを考えました。



点字学習の様子

学校に献血バスが来た!

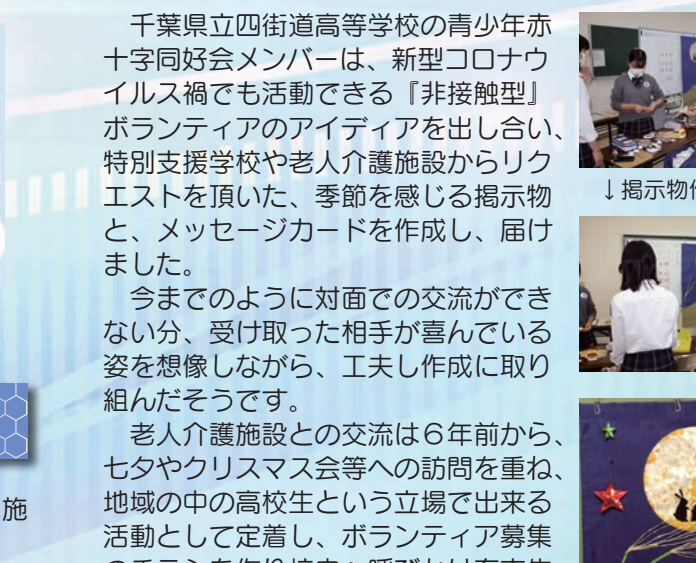
9月1日(火)、暁星国際高等学校において、校内献血が行われました。新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの高等学校や大学での献血が中止・延期となり、献血バスの受入先が減少するなか、同校では例年どおりご協力をいただきました。今回の実施にあたり、密集回避のための会場レイアウト設定や献血協力希望者数の把握から協力時間、受付会場への分散入場の調整など、学校の先生方には例年以上のお手数をおかけすることとなりましたが、無事に実施することができました。



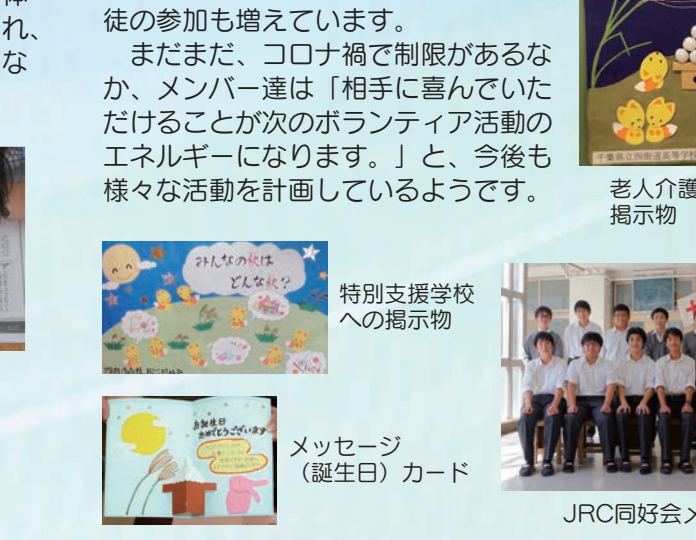
献血バス内採血風景
献血バス外休憩風景

コロナ禍に負けるな! ボランティア活動

千葉県立四街道高等学校の青少年赤十字同好会メンバーは、新型コロナウイルス禍でも活動できる「非接触型」ボランティアのアイデアを出し合い、特別支援学校や老人介護施設からリクエストを頂いた、季節を感じる掲示物と、メッセージカードを作成し、届けました。今までのように対面での交流ができない分、受け取った相手が喜んでくれる姿を想像しながら、工夫し作成に取り組んだそうです。老人介護施設との交流は6年前から、七夕やクリスマス会等への訪問を重ね、地域の中の高校生という立場で出来る活動として定着し、ボランティア募集のチラシを作り校内へ呼びかけ有志生徒の参加も増えています。まだまだ、コロナ禍で制限があるなか、メンバー達は「相手に喜んでいただけことが次のボランティア活動のエネルギーになります。」と、今後も様々な活動を計画しているようです。



↓掲示物作成風景↑
老人介護施設への掲示物
特別支援学校への掲示物
メッセージ(誕生日)カード



JRC同好会メンバー

赤十字の活動のために

南小中台保育園の皆さんからチャリティーバザーの収益の一部を赤十字活動資金として贈呈いただきました。代表の園児から、「こまっています人のために使ってください。よろしくお願いします。」と、日本赤十字千葉県支部の事務局長に贈呈していただきました。その後、赤十字会館の一階のギャラリー「糸杉」の展示物を熱心に見学していました。



南小中台保育園の皆さん

インターンシップで学ぶ!

10月28日(水)、29日(木)の2日間、千葉県立泉高等学校から、生徒4名がインターンシップに参加しました。千葉県立泉高等学校では、将来的に自立した社会人を育成するためのキャリア教育の一環として、インターンシップを実施しており、当支部では生徒を毎年受け入れています。参加生徒の皆さんは、医療系(看護師等)の職業に興味を持っており、インターンシップ派遣先として、医療福祉の分野で幅広く活動する日本赤十字社を選びました。参加した生徒からは、「赤十字が行っている事業について理解が深まった。」「献血における採血手順の説明を看護師から直接聞くことができてよかった。」「採血手順が細かく決められていることに驚いた。」などの感想があり、インターンシップを通じて貴重な体験ができたようです。



血液事業の説明を受けている様子
義足体験の様子
義肢装具士業務の体験

「いのちを守る授業」救急法短期講習会

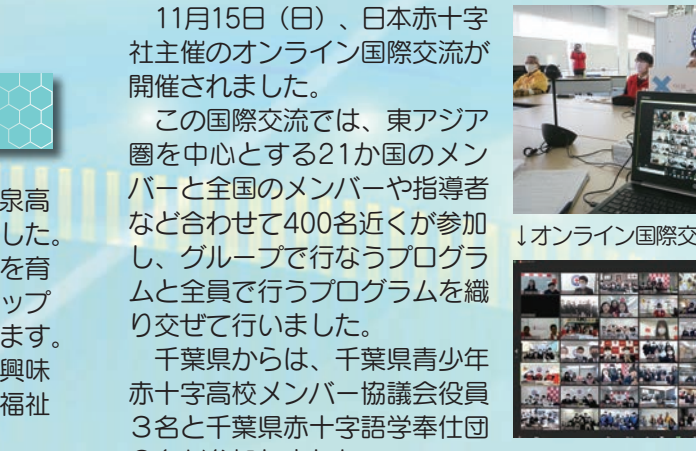
10月2日(金)千葉県立星久喜小学校と10月28日(水)千葉県立こてはし台小学校で「いのちを守る授業」救急法短期講習会が行われました。児童の皆さんは、赤十字救急法指導員の指導のもと、アツバくん(簡易心臓マッサージ用)を使って心臓マッサージの練習をしました。とっさのときにいのちを守るために何が出来るかを考えながら取り組みました。



心臓マッサージの練習
いのちを守るキーワード

オンライン国際交流

11月15日(日)、日本赤十字社主催のオンライン国際交流が開催されました。この国際交流では、東アジア圏を中心とする21か国のメンバーと全国のメンバーや指導者など合わせて400名近くが参加し、グループで行なうプログラムと全員で行うプログラムを織り交ぜて行いました。千葉県からは、千葉県青少年赤十字高校メンバー協議会役員3名と千葉県赤十字語学奉仕団2名が参加しました。参加生徒は、本番前に語学奉仕団の方から英語会話のアドバイスを受け、同じグループとなった他県メンバーやベトナム・フィジー・中国のメンバーらと英語でふるさとの一品や自分たちの活動の紹介を行いました。全員で行うプログラムでは、アメリカ合衆国の医療現場で活躍している永井医師からコロナ禍における医療関係者の状況などの話を伺ったうえで、新型コロナウイルス感染症とどのように向き合っていけばよいか、意見を交わしました。休憩時には各国のメンバーが自由に会話をし、賑やかな雰囲気でした。参加した生徒からは、「短時間だったが、たくさんの国や地域の方と交流ができてとても楽しかった。」「英語でのスピーチがたいへんだったが、表情やジェスチャーでうまく伝えることができた。」などの感想があり、オンライン国際交流は良い経験になったようです。



↓オンライン国際交流の様子↑